

HONDA

The Power of Dreams

岩田 和之 Iwata Kazuyuki

本田技研工業(株) コーポレート戦略本部付 技術統括 兼
(株)本田技術研究所 先進パワーユニット・エネルギー研究所
エグゼクティブチーフエンジニア



1986年明治大学工学部卒、本田技研工業（株）入社。ホンダライディングシミュレータの開発担当後、1993年に（株）本田技術研究所に異動してエンジン設計に従事、NSXや初代i-VTECの開発を担当。2005年に電動パワープラント研究開発に異動、ハイブリッドやFit EVなどの開発を経て2012年から超小型EVの開発を陣頭指揮。2013年に本田技研工業(株)に異動し、スマートコミュニティ関連の新事業企画を担当。2016年4月、(株)本田技術研究所に戻り執行役員就任。LIBTEC、電動車活用社会推進協議会、FC-CUBICなどの理事を兼務しながらHondaモバイルパワーパック、Honda eMaaS, Honda eVTOLなどを提案～開発を統括。2020年にはトヨタ自動車とのコラボレーション「Moving e」を推進。2021年からエネルギー商品統括を担当、2022年から本田技研工業と兼務、2024年からコーポレート戦略本部付技術戦略統括を担当。

<講演タイトルと概要>

カーボンニュートラルに向かって～電動化の本質と新価値～

世界各国で環境規制が厳しくなる中、自動車産業は100年に一度の変革期と言われている。特にカーボンニュートラル対応は必須でありEVなどの電動化は一つ的手段として有効であるが、その課題は依然として多く、中でも電池コストは車両コストに与える影響が最も大きい。EVは踊り場とかキャズムを超えないと言われる中で今後電動車両を社会に広めるためには単にエンジンをバッテリーとモータに置き換える商品を提供するだけでは顧客の理解を得ることは難しい可能性がある。一方でエンジン車両に対して電動車両にしかなれないことがあり、今回は停車中の二輪や四輪の電動車両の電池を“動く蓄電池”として応用するV2Xや着脱式電池であるホンダモバイルパワーパックなど最新のホンダの取組を紹介を交えながら電動化の本質を説明する。